

實現すべく目覚めたのである。

二、我が資本主義の現勢

我國の資本主義は生産縮小に於ても生産の技術に於ても其の水準に達しなかつた段階に於ても早くも行詰つた。其処で資本家と政府は労働階級に對して極度の搾取と壓迫を加へ、労働者の生活低下と奴隸化につとめてゐる。

三、次の現勢に即した組合運動の根本方針

次の資本主義の攻撃に對して労働者の戦闘力を強大にせねばならぬ。それが爲には一般大衆の現実的要求に基いて、大衆を労働組合に結束し、これを戦闘的に教育訓練せねばならぬ。然し大衆と妥協せねばならぬ。資本家と妥協してはならぬ。方向轉換の精神は、階級意識を棄てることである。階級闘争への立脚を、下り協調主義にふくむことである。階級闘争の戦線に、労働大衆を動員することである。

四、組合運動の現状と指導精神の批判

資本主義が絶望的の攻撃に轉じた結果、其の攻撃力、在来の組合の力では闘争によつて労働条件の維持改善が困難とあり、同時に他方に資本家は懐柔政策を以て組合の軟化に努めて来た。そこで官僚幹部は直ちに妥協協調に走つて資本主義の利益の分け前と共にうとずるが末期の資本主義には、その如き経済余力がはいかぬ。行き詰つた現状に於て妥協によつて労働者の得る如きは屈伏以外に何れも無い。故に労働階級の生活改善は、不断の闘争による外之を得る手段が、其の如くこの闘争の力を増大し、闘争を有効にする爲に方向轉換の必要がある。総同盟十三年度大会に之れに關する宣言が弁せられた。其の精神も實に此に在るのである。

然るに敵の勢力の増大を見て直ちに階級闘争の戦線と放棄して階級協調に方向を轉回せんとする総同盟